

解答

一

問一 みな生まれた瞬間から必ず何かに接触して生きており、その「何か」と自分との間につながりを構築していくことこそが学びであるため、人間は世界中どこにいても、常に学びの機会を手に行っていると考えるから。

問二 学びと遊びとはどちらも、人間にもともと備わっている象徴機能を活かして、世界と自分との間に新しい意味を創り出していく営みであるということ。

問三 標準化された「知識」、既存の「正解」として外から一方的に与えられるだけの「学び」を大切にし、「遊び」を軽んじることで、自ら新しいものを追求する過程によって得られる人生の素晴らしさを感じることができないままになってしまふ恐れがあるから。

問四 才

二

問一 子どもたちの言葉の一部を短く取り出すことによって内容の印象を強め、「わたし」がその部分に最も注目し、かつその内容に疑いの念を抱いていることをほのめかす効果。

問二 「弟」は周囲に存在するすべてのものに対して、細心の注意をもって大事に接するべきであると考えていることと、

問三 「弟」 状況を言葉でうまく説明することができない無念と、そこにつけこまれ、濡れ衣を着せられたことに対する怒りと悔しさをいっばいの気持ち。

「わたし」 無実の罪をきせられ苦しむ弟に対して、何もしてあげられないもどかさや悔しさを抱え、悲しむ気持ち。

問四 割れたガラスの破片から、自分を信じてくれない祖母に対する弟の怒りと悲しみ、そしてそれを心の中で処理することができず、外に噴出させてしまったことに対する彼の自責の念が感じられたということ。

三

先んずれば人を制す

四

問一 花は古くから太陽の位置や気温、星の傾き加減といった自然の変化によって時間を測ってきたのに、長針と短針を得たことによって、本来自分たちの時間とは測り方が全く異なる、人間の時間に追われるようになってしまったから。

問二 花が人間に対してへり下った言い方をしていることから、人間を警戒し、人間の気持ちを逆撫でしないよう注意して話していることが読み取れる。